

太陽とかわず

小川未明

青空文庫

池いけの中なかに水草みずくさがありましたが、長い冬なが ふゆの間あいだ水みづが凍こおっていまし
 たために、草くさはほとんど枯かれてしまいそうに弱よわっていました。そ
 れは、この草くさにとつて、どんなに長ながい間あいだでありましたでしょう。
 そのうちに、やつと春はるがきまして、氷こおりが解とけはじめました。池いけ
 の水みづは日ひに増ましぬるんできて、日ひの光ひかりがその面おもてを照てらすようにな
 りましたので、水草みずくさは、なつかしい太陽たいようをはじめて仰あおぐこと
 ができました。

太陽たいようが、にこやかに笑わらって小ちいさな水草みずくさをじつとながめまし
 たときに、草くさはうれしさに、心こころはもういっぱいで、目めに涙なみだぐんで
 太陽たいように訴うえました。

「お日さま、もうわたしは、まったく死にそうでございました。
もしも、あなたがもつと長い間わたしをこんな暖かに照らして
くださらなかったなら、わたしは、ほんとうに凍えて死んでしま
ったでしょう。どうか、もうわたしを見捨てないでくださいまし。
わたしの小さな紫色の花が咲きますまでは、どうぞ毎日の
ようにお恵み深い光で照らしてくださいまし。わたしは、いまか
らその場になって、また毎日雨の降るのが氣遣わしゅうござい
ます。どういふものかわたしは、この池の中に棲んでいるかわず
と氣質が合わないので、つねに苦しめられますけれども、なんと
いっても、かわずのほうがわたしより強うございます。それに、
かわずは雨が好きで、雨の降るようにならばいつも訴えますので、わた

したちは短い命を雨のために悩まされるのでございます。どうぞ、お日さま、わたしたちをお恵みください。」と、水草はいいました。

太陽は笑つて、水草の訴えを聞いていましたが、「わかつた、わかつた。」と、その頭を振つてみせました。

ある日、かわずは池の面に浮かんで、太陽の光に脊中を乾していました。そのとき、太陽は、やさしく、かわずに向かつていました。

「私は、この大空を毎日東から西に自由に歩いている。おまえは、その池をかつてに泳ぎまわることができない。私は、空の大王と呼ばれている。してみると、おまえは、池の王さまだ。私

は今日きょうから、おまえを池いけの王おうさまにしてやる。それにしては、私わたしが、すべてのものに対してたい恵み深いめぐふかように、おまえは、池いけの中なかのものにたい対して、だれにでもしんせつでなければならぬ。」と、
太陽たいようは諭さとしました。

わがままでとんまでありましたけれど、いたって人ひとのいいかわずは、すぐに得意とくいになつてしまいました。

「おお、俺おれは、池いけの中なかの王おうさまになつたんだ。この広い池いけはみんな俺おれの領地りょうちだ。なんと俺おれはえらいもんだらう。」と、かわずはあたりを見みまわしました。

それからというものは、かわずは、朝あさは太陽たいようの上のぼるとともに起き、夕ゆうべは、太陽たいようの沈しずむときまで、ともに水みずの中なかをはねまわ

つて、なにやらわからぬことを口やかましくいつて、池の中を治めるためにいつしようにけんめいであつたのであります。

しかし池の底には、かわずのまだ知らない、いろいろな魚や、また恐ろしい虫などが棲んでいました。独り、水の中ばかりでなく、池の周囲には、森があり、やぶなどがありました。そこには、蚊や、ぶとや、はちや、小鳥などが棲んでいます。それらに對しても、この池の王さまであるかわずは、いちいち気を配らなければなりませんでした。

いままで、あんまりなんにも考えるところをしなかつたかわずは、夜もろくろく休むことができなくなりました。たまたまいい月夜で、月の光が池の面を黄色く彩りますと、かわずはびつ

くりして、不意に起き上がって、もう早、お日さまがお上りになつたのかと思ひ、大騒ぎをして、口やかましく、しゃべりたてることもありました。

春の日の午後のことでありました。

「だいぶん水も暖かになつた。旅行にはいい時分である。幾日かかるかしれないが、この広い領地を一巡りしてこようと思う。」と、かわずは、さぎなみの立つ池の面を見渡しながらひとり言をもらしていました。

そのとき、そばでこれ聞いていた一ぴきのぶとがありました。「かわずさん、旅行行って、どこまでおいでなさるのでございませうか。」と、ぶとが問いました。

かわずは、不意ふいにこういつてきかれたので、ちよつと驚おどろきました。そして、そばに小ちいさなぶとがいたことに気きづきました。

「おまえはまだ知しらないが、お日ひさまは空そらの大王だいおうだ。俺おれは、この池いけの王おうさまなんだ。なんとこの池いけは広ひろいもんじやないか。お日ひさまが東ひがしの森もりからお上のぼりなさつて、西にしの森もりに沈しずみなさるまでちよつど一日いちにちかかる。まるで、お日ひさまは、この池いけを照てらしなさるために、空そらをああして歩あるいていなさるのだ。その池いけは、俺おれの領地りょうちだ。俺おれがこの池いけを一ひとめぐ巡りせんでいいものか、考かんがえてみるがいい。」と、かわずはいいました。

すると、ぶとは、おかしさをこらえながら、

「かわずさん、あなたは、世間せけんがどんなに広ひろいかまだお知しりなさ

らない。わたしは、昨日、馬について、遠方まで行ってまいりました。疲れると馬の体に止まりました。ほかにはもつと大きな池があります。また、大きな森がいくつもあります。かわずさん、あなたは、まだお知りなされないでしょうが、またにぎやかな町があつて、そこには珍しいものや、きれいなものがいっぱいでした。あなたも世間へ出てごらんなされたら、こんな池は、てんで問題にならないことをお悟りなされたにちがいありません。」と、ぶとは語つたのです。

かわずは、ぶとの話を聞いて、それをほとんど信ずることができないほど驚いたのです。そして、もしそれがまつたくほんとうであつたなら、自分のいままでの考えが一変することを自分な

らおそれたのです。

「おまえは、なにか夢でも見たのじゃないか。」と、かわずはいました。

「かわずさん、なんで夢なもんですか、まったくほんとうのこと
でございます。」と、ぶとは答えました。

かわずは、心の内で、なんで、ぶとが馬などについていったら
う、ゆかなければ、そんなものを見てこなかつたらう。見てこな
ければ、俺の頭の中まで、ひっくりかえすようなことをしなかつ
たらう。そうすれば、俺は、やはりこの池の王さままで、安心し
ていられたものを、とんでもないことになったもんだと思いまし
た。かわずは、しばらく考えていましたが、

「おまえは、昨日見てきたことをすっかり忘れてしまえ。」と、かわずは、ぶとにいいました。

すると、ぶとは、当惑とうわくそうにかわずを見つめて、

「だって、この私の頭わたしあたまの中に刻きざみつけられた、世間せけんの有あり様さまを、どうして忘わすれることができましよう？」と、ぶとは答こたえました。

かわずは困こまつてしまいました。

「おまえは、そのことをだれかに話はなしたか。」と、かわずはたずねました。

「いえ、まだ私わたしは、だれにもあいませんでした。今度こんどあつたら、みんなに聴きかしてやろうと思おもっています。」と、ぶとが答こたえました。

かわずは、ぶとがみんなに、そのことを聞かしたら、そのとき、みんなはどんなに騒ぎ出すだろう。そして、この池をいちばんいいところと思わなくなりはいしないかと心配したのです。

かわずは、しばらく思案に暮れていました。

「そうだ。このぶとの小さな頭の中に、その世間というものがみんな入っているはずだ。それをすつかり、俺のものにしてしまうことは造作もないことだ。俺が、このぶとをのんでしまえば、みんな俺のものになってしまおうだろう。そして、だれにも、しゃべられる心配もなくなってしまうて、このうえもない、いいことなんだ。」と、かわずは考えました。

かわずは、不意に、大きな口を開けて、小さなぶとを頭からの

みこんでしまいました。

しばらくたつてから、かわずは、世間せけんがそつくり自分じぶんの頭あたまの中なかに入はいってしまったものと思おもつて、それを考かんえ出だそうとしました。しかし、ぶとのいったような世間せけんは、てんで見みえなかつたのであります。そこでかわずは、ぶとがうそをいったのだと信しんじました。そして、やつと安あん心しんしました。空そらの大だい王おうはお日ひさまで、池いけの王おうさまは自分じぶんだと思おもつたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 一」講談社

1976（昭和51）年11月10日第1刷

1977（昭和52）年C第3刷

※表題は底本では、「太陽《たいよう》とかわず」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2013年9月23日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

太陽とかわず

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>